



アイドル調教牧場

「いいね、澄香ちゃん。
似合ってるよ」

「プロデューサー！ 何なんですかこの衣装！？
こんな格好するなんて、私聞いてません！」

「君はまだ無名の新人アイドルなんだから
少し過激な衣装でアピールしないと！
先輩たちも通って来た道だよ？」



「ほらっ、社長たちがお越しになられたぞ！
ちやうんとおもてなしするんだよ。
これも仕事のひとつだからね！」

「え……！？
きやあああ！
な、何するんですか！？」

「ほお、今度の新人は
なかなか有望じゃないか！
じっくり堪能させてもらうぞ！」

「嫌あ……！
こんなこと無理です、私……！」

モミ
モミ

じやろろ……

「おっぱい大きいね〜君。
乳首も勃っちゃって、
気持ち良くなっちゃった？」

「そんなことないです……！
あつ、
おっぱい吸っちゃダメえ！」

「雌牛なのに母乳は出んのか？
んん〜？」

じゅるる……

モリモリ



「乳が出んのなら
わしらのミルクを搾ってもらおうか！」

「だから無理ですってばあ！
嫌あ！
すごいビクビクしてるう……！」

「おほお！
やわらかい乳がチンポに擦れて
気持ち良いぞ！」



「うっ…もうイきそうだ。
ほらっ、出すぞお！」

「やああああああ！
熱くてドロドロしてるうづうづ…！
もうっ、嫌あ…！」

「どうだ？
わしらの濃厚搾りたてミルクの
お味は？ ぐはは！」



「たくさん乳が出るように
わしらがしっかり育ててやるぞ！」

「もうっ、やめて下さい……！
あっ……駄目え！
抜いてええええええええ！」

「ほおっ、さすが新人は
アソコの方も初々しいのう！
良い締め具合だ！」

ズポ
ズポ



「あっあっああん！
駄目え！
どうしてっ…こんな…！
あっあん！」

「セックスすれば
女に磨きがかかって
アイドルとしての魅力も増すんじゃないか？
それにそんなこと言って
アソコはもうビショビショじゃないか！」

ズ
ポ
ズ
ポ



「よし、そろそろ出すぞ。
膣にたっぷり注いでやるからなあ！」

「やだ…中に出さないで……！
あっあっ、嫌あああああああ！」



A blue-haired anime girl with a yellow bell collar and mechanical eye devices. She has a surprised expression with wide blue eyes and a slightly open mouth. The background is dark with some straw visible at the bottom right.

「さて、あれからしばらく経つが
そろそろ良い頃合いかのう…。
たっぷり生乳を搾ってやるぞ」

「嫌あ…こんな仕事
いつまで続くの…？
…あ、ああ！
おっぱい吸われちゃうううう！」

「ほほっ
たくさん出ておる！
立派な雌牛じゃ！」

ビュ
ー

ビュ
ー

「あっあっあ！
駄目ええええええ！
おっぱい出ちゃうよおおお！」

「よし、そろそろ
わしの搾りたてミルクも
いっぱい出してやるぞ！」

ビュ
ー

ビュ
ー

ビク
ビク

ビ
ュ
ー

「あっあっあああああ！
熱いのがお腹の奥に
いっぱい出てるよおおおおお！」



「あっあんっああん！
そんなにズボズボしたら駄目えええ！」

「ほらっ、ここがイイんだろ！？
このメス牛めえ！」

「スケベな声で鳴きおって！
本当は気持ち良いんだろう？」

ズッ
ズッ

「あっあっ……ち、違うのに！
どうして…？
段々気持ち良くなってきちゃった…！
んっ、あっああん♡」

「ようし、
そうやってファンにも腰を振れば
人気アイドルになれるぞ！」

「ほ、本当ですか！？
ありがとうございますっ…♡」



「うっ…そろそろ出そうだ。
濃厚ザーメンミルク
いっぱい出してやるぞぉ！」

「あああああああああああああああ！
気持ち良すぎて母乳出ちゃうぅぅぅぅぅ！♡」

ビクンニ

ビクンニ

ド
ク
ッ

「澄香ちゃん、これで君はもう
立派な雌牛アイドルだよ！
これから色々なお仕事、よろしくね♪」





























